愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	海外研修プログラム		
担当者(Instructors)	田村 豊	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	4	必修・選択(Required / selection)	選択
			実務家教員科目(Pro teacher course)

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本学と交流協定を結ぶ大学での語学習得を含め現地での研修を目的とした科目である。各交流協定校で実施される語学プログラムだけでなく現地企業を利用した研修に参加し、外国語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、現地の方々との交流や課外活動を通じて異文化について学ぶ。 また、それらの体験を通じ、母国語とその文化についての見識を深め、表現力・発信力を身につける。なお各研修先での状況によりプログラムの詳細には変更が起こる場合がある。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	実験・実習
授業の方法(Class method)	講義・演習形式で事前研修・事後研修授業を行う。 現地研修でグループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを含む語学研修を実施する。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	研修を通じて実践的知識とその具体的内容について学ぶことが可能である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	事前研修(現地情報・渡航準備)	現地についての事前知識・安全情報など、渡航に必要な英会話とその知識を学ぶ	□
第2回	事前研修(課題説明・英会話)	研修目的と研修中の注意事項、研修において課される課題説明を通して、研修計画をたてる	□
第3回	交流協定校の語学プログラム(1)	Small Discussion, Grammar, Pronunciation class (交流協定校プログラム)(1)	□
第4回	交流協定校の語学プログラム(2)	Small Discussion, Grammar, Pronunciation class (交流協定校プログラム)(2)	□
第5回	交流協定校の語学プログラム(3)	現地学生との交流活動を通してコミュニケーション力を養う(1)(交流協定校プログラム)	□
第6回	現地の課外プログラム(1)	ボランティア活動などを通して、海外事情・文化背景を学ぶ	□
第7回	交流協定校の語学プログラム(4)	Small Discussion, Grammar, Pronunciation class (交流協定校プログラム)(3)	□
第8回	交流協定校の語学プログラム(5)	Small Discussion, Grammar, Pronunciation class (交流協定校プログラム)(4)	□
第9回	交流協定校の語学プログラム(6)	現地学生との交流活動を通してコミュニケーション力を養う(2)(交流協定校プログラム)	□
第10回	現地の課外プログラム(2)	ボランティア活動などを通して、海外事情・文化背景を学ぶ	□
第11回	交流協定校の語学プログラム(7)	Small Discussion, Grammar, Pronunciation class (交流協定校プログラム)(5)	□
第12回	交流協定校の語学プログラム(8)	現地学生と共同してプレゼンテーションの準備をする (交流協定校プログラム)	□
第13回	交流協定校の語学プログラム(9)	プレゼンテーション	□
第14回	事後研修(課題作成)	課題作成	□
第15回	事後研修(全体の振り返り)	全体での課題共有と振り返り	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前:渡航にあたって必要な現地情報・必要な英会話の確認と準備を行う。現地では毎日の語学プログラムで学ぶ内容についてテキストの読解を2時間程度行う。 事後:現地ではその日に学んだ事や経験した出来事などを日記として記録しておく。その際、学ぶ語学で簡単にまとめることが望ましい。語学プログラムの復習を含めて2時間程度行う。帰国後は各自の課題に従ってレポートとしてまとめる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

Google Classroomなどの共有できるツールを通して、課題の共有を行う。また、全体として一つの報告書を作成する際に全体の振り返りを行い、個々の経験・学びを共有する機会を設ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021国際ビジネスDP3	将来に向けて必要となる知識や技能を主体的に身につけ、グローバル化の影響を受けながら発展する国際社会が備えている多様な文化、社会、経済の状況を踏まえ、ビジネス活動を通じて広く世界の人々と協働し、共創的に活動する社会性を身に付けている。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

交流協定校による評価(20%)本研修に関するレポート(30%)

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		